

H.26 笹川スポーツ財団助成研究 レポート

「女性のスポーツ指導者キャリアパスの検討～コーチング効力感に着目して～」

町田萌（代表 順天堂大学）

荒木香織（兵庫県立大学）

木田京子（園田学園女子大学）

女性アスリートの活躍に加え、平成23年にスポーツ基本法が施行されたことにより、女性のスポーツ参加への関心が高まっている現在、女性のスポーツ指導者のキャリアを促すことは、スポーツ振興にとって重要な課題であると言える。しかしながら、我が国の女性のスポーツ指導者の現状やキャリアに関しての知見は未だ少ない。

スポーツを効果的に指導することに対する自信（Feltz et al., 1999）と定義される「コーチング効力感」のスポーツ指導者のキャリア発展における役割が注目されている。本研究の目的は、現役スポーツ指導者を対象に、コーチング効力感と環境および個人要因の関係、さらにコーチング効力感とそれに関する要因の男女間の違いを探索的に検討することであった。

方法

調査参加者は現在スポーツ指導を行っている328名（女性70名、男性258名）であった。個人や指導歴に関わる基本情報、コーチング効力感、ソーシャルサポート、ワークライフバランス、性差別への意識を測定する質問紙調査を実施した。

結果

以下は、コーチング効力感との**+**の関係が見られた。

<ul style="list-style-type: none">指導に費やす時間指導している選手の総数競技歴指導歴	<ul style="list-style-type: none">スポーツ指導者講習会への参加頻度同性から指導を受けた経験同性と指導をした経験
--	--

以下では、男女の違いが見られた。

女性 > 男性	男性 > 女性
<ul style="list-style-type: none">ソーシャルサポート男女差別への意識報酬（有無）	<ul style="list-style-type: none">コーチング効力感指導している選手の総数競技歴指導歴スポーツ指導者講習会への参加頻度同性から指導を受けた経験同性と指導をした経験

コーチング効力感と関係していると考えられる「指導している選手の総数」、「競技歴」、「指導歴」、「スポーツ指導者講習会への参加頻度」、「同性から指導を受けた経験」、そして「同性と指導をした経験」で男女の違いが見られた。それが、男女のスポーツ指導への自信の違いに影響を与えている可能性が示唆された。

その他の結果

- 約56%（女性は28%、男性は60%）がスポーツ指導に対する報酬なしと答えた。
- 約37%（女性は44%、男性は35%）がスポーツ指導者講習会に年に一度も参加していないと答えた。
- 約92%の男性が同性から指導を受けたことがあると回答したが、その割合は女性では約65%にとどまった。また、男性の約97%が同性と指導をしたことがあると回答し、その割合は女性では約73%であった。
- 調査参加者の約89%が男性ということからも、女性の現役スポーツ指導者が少ない現状が示された。